

# 平成19年度「夢」に関する絵と作文コンクール最優秀賞作品

学校と地域、家庭が連携して子どもたちの夢づくりを応援しようと、平成18年度に「生徒指導総合連携推進委員会（庄司和明会長）が発足しました。同委員会では、その活動の一つとして、昨年度に続き村内小・中学生、高校生を対象に「夢」に関する絵と作文を募集しました。その中から、最優秀賞に選ばれた作品をご紹介します。

## 高校生の部

（課題・もし自分が社長になったら）

### もし自分が社長になったら

相農飯館分校

中井田佑実



まず、私が社長になるなら高齢者の方で世話をする人がいない不自由な生活をしている人達をケアする経営の仕事がしたいです。老人施設や各家をそれぞれ訪問して介護する職場などを作り、今現在すでに問題となっている高齢化社会を解決できる、また、高齢者の毎日一日一日の生活が安心感と温かさで満ちあふれている、そんな環境を作ってあげたいです。

何年か前までは高齢化社会という言葉が毎日ニュースで流れていたのに、最近では、その高齢者が犯罪を起こして容疑者になっていたりと、逆に殺され被害者になったりして、同じ高齢者や人間同士が憎み合っている時代です。そんな時代の中で、頼る人のいないお年寄りは、外へ出る時、また、いくら家の中にいてもいつ何が起るか分からない生活を恐る恐る過ごしているのかと思うと、とてもかわいそうで若者達に出来ることはないのかと悩みます。

ほかに高齢者にとって不安な事は山ほどあると思います。例えば、介護をしてもらう為にはお金もかかります。いろんな問題をふまえた上で、一人でも多くのお年寄りに、もう一つの家である温かい居心地のよい自分の居場所がそこにはある、という施設を作ってあげたいです。それから、訪問の場合は、その人にとって家族のような頼りがいのあるケアが出来る会社を作りたいです。

私がなぜ、こんなにも高齢者の生活をよくさせたいのかと言いますと、理由は二つあります。一つ目は、高齢者の人達は戦争という出来事を最も知っている方達だと思います。そんな苦労を小さいうちから経験

しているのに、年をとっても生活に恐ろしさが絶えないという事を私は、させたくないからです。

二つ目は、私の祖父がきっかけです。祖父は病気で入院を何年も繰り返し、最後の入院は亡くなるまで8ヵ月間病院で過ごしました。私の家族は祖父母を本当に大切にしていました。8ヵ月も病院にいると最後の方は「家に帰りたい」が口ぐせでした。私は、家族の元へ帰り家で暮らしたいという祖父の思いに答えてあげたくて、いつも看病で少しでも支えてあげようと家族の協力をしました。その後、私の家族は、病院が我が家のように通い続け、祖父はそれを病室で迎えていました。いくら元気なお年寄りであっても、人の心の温かさや家族のような人が必要なんだと思います。私は、施設や訪問で介護をする会社をより多く慎重に作り、またそこで働く人もより心豊かな人を集め、たくさんのお年寄りに居場所を作ってあげたいです。そして、残りの人生を安心して明るく楽しく暮らしていつてもいいです。お年寄りがいるから、今の私達若者がいるんだと思います。私は高齢者のケアができる心から綺麗な社長になりたいです。

## 小学校高学年の部

（課題・もし自分が先生になったら）

### 自分の色

草野小学校6年

佐藤ちひろ



「ちいちゃん、下絵できた？」

版画の下絵を描いていた時、近くの友達と話しかけてきました。

「全然だめ。下のほうのスペースがあいちゃって考えていたら、先生に色々言われているうちに、ますます何を書けばいいかわからなくなっちゃった。」

私がそう答えると、友達は小さくため息をついて言いました。

「私もなの。背景がさみしいとか言われて、自分の絵がイメージとすれちがっちゃう気がするんだよね。」

言われてみれば、確かにそうかも……。先生に言われたことを一つ一つ思い出すと、先生の強い思いにふり回されているような。

ふと、紙の上をうろちよろしていた鉛筆がピタリと止まり、それと同時に、頭の中になつかしい言葉がパツとよみがえりました。

「空は空色。水は水色。そして、自分は自分色。一人一人自分の色を大切にするんだよ。」

そういえば、昔の担任の先生がよく言っ

ていたっけ。「自分色」かあ。そうだよな。

自分の色はたった一つの自分の色だもの、大切にしなくちゃ。花だんに咲いている花だって、これが私なんだぞつと言わんばかりに咲きみだれている。人間だって生まれ持った自分の色にはこりを持たなくては、と思います。

もし、私が先生になれば、生徒一人一人とまっすぐに向き合って、それぞれの個性をよく分かってあげたいなあ。そしたらきっと、クラスの中が生き生きとした「自分色」でいっぱいになる。

ふと、現実の世界にもどった私は、「先生、下絵ができました！」

と先生のところへ行きました。たとえ先生がどんなことを言っても、私はもう気にしない。そう、これが私なんだぞつ！ともと言わんばかりに。

## 中学生の部

（課題・もし自分が名人になったら）

### 私が目指す名人

飯館中学校3年

高橋 和子



土屋名人。今、最も輝いている「そろばん」のプロです。同じ東北地方、宮城県の出身で何度も全国大会優勝という素晴らしい成績を残しています。

私は小学校3年生の終わり頃からそろばんを習っています。そろばん教室の見学をした時の大きな衝撃は今でも忘れることができます。その頃の幼い私にはあまりにも印象的だったのでしょうか。一瞬にしてそろばんの虜になってしまいました。操られるように動く指・踊るように動く珠・歌うように流れる珠をはじく音。これは何？私にはこんなことができるようになるの？今までにいくらい感情が高ぶっていた自分。今思えば何も知らない純粹さから来た気持ちなのだろうと考えることができます。

今でも私はそろばんを習いに川俣まで週2日通い続けています。私が習っている教室には選手会という同じ教室から選抜された上手い選手が集まる一つの会があります。今私はその会に在籍していて、各種大会様々なそろばんに関する行事に参加しています。

去る5月27日、郡山市でそろばんグランプリという全国につながる大会に出場しました。福島県内すべてから選手が集まり、その技と正確さを競います。私は過去にも出場経験がありますが、なかなか上位入賞ができませんでした。というよりは、上位に入ることにはできないと自分で思い込んでいたから、できずにいたのかもかもしれません。競技も終わり私はとてもうれしい気持ちになっていました。なぜなら、目標としていた東北大会出場の切符を手にすることがで

現在、村では相双教育事務所、南相馬警察署等の支援もいただきながら、村内21の関係団体で『生徒指導総合連携推進事業』に取り組んでいます。

事業は、文部科学省の委託事業で平成18、19年度の2カ年事業として行われており、期間中、子どもの夢を育てることをスローガンに、子どもたちの生活態度、学習意欲の向上と非行の未然防止を目的として「朝のあいさつ運動」や「いいいてつ子夢づくり推進大会」などの活動に取り組んできました。

## 今までの取り組み

わたしがずっとそばを育ててきて、夏にさいた真っ白で小さくてきれいなそばの花が大好きになりました。だから、もしもわたしが鳥になったら、あのきれいな白いそばの花がさくそば畑の上を飛び回りたいです。これは、自由に飛び回った後、木の枝に止まって上からそば畑をながめている所の絵です。みなさんも、ぜひ白石小学校のそば畑を見に来てください。

わたしはずっとそばを育ててきて、夏にさいた真っ白で小さくてきれいなそばの花が大好きになりました。だから、もしもわたしが鳥になったら、あのきれいな白いそばの花がさくそば畑の上を飛び回りたいです。これは、自由に飛び回った後、木の枝に止まって上からそば畑をながめている所の絵です。みなさんも、ぜひ白石小学校のそば畑を見に来てください。



■垂れ幕作成  
村公民館に掲示し、利用者や往来のみなさんに「子どもの夢づくり」支援をアピールしました。

毎月1日と15日をあいさつ運動の日とし、学校の校門付近であいさつを呼びかけています。  
だれでも参加できます。子どもたちに朝の一声をかけてあげてください。



■朝のあいさつ運動

小学校低学年の部  
(課題・もし自分がお菓子になったら)  
わたしがおかしやさん  
になったら

白石小学校2年  
嘉藤真菜華



きたからです。スクール部門で見事3位に入ることができたうえに東北大会出場。私にとってはとても名誉あることであり、今までの努力が実ったような気持ちでした。

来たる9月9日。私は東北の名人に挑戦します。県大会よりも高いハードル。どこまで力を出しきれるか自分の限界を超えたいと思います。

冒頭で書いた土屋名人。私は彼を知った日から、その技とレベルの高さを目にしたいと思っていました。やっと夢が叶う。自分の力と家族、先生の力が一つになり実現することとなった夢。土屋名人やその他の多くの名人と競うことで、少しでも自分を成長させたいと思います。

私になりたい名人。それは「そろばんの名人」です。そして、多くの人にそろばんの素晴らしさとすごさを知って欲しいと思います。

そろばんとの出会いは私を成長させるためにあったのかもしれない。

わたしが、もし、大きくなっておかしやさんになったら、大きな大きなおかしの家を作りたいです。そのゆめが、この絵です。家の中に、入りきれないくらい大きな大きなおかしの家なので、外がわから作っているところです。おかしの家は、わたしの大きなあまーいお菓子でできています。チョコレートやクッキー、キャンディなど、たくさんつかいます。空にはにじが出ています。こんなふうに、楽しいゆめがかなうといいと、思っています。



小学校中学年の部  
(課題・もし自分が鳥になったら)  
わたしが鳥になったら

白石小学校3年  
林 優



わたしたちの白石小学校には、みんなが育てているそば畑があります。暑い夏にたねまきをして、10月にかり取りをしました。そのあと3年生と4年生で、そばの実をやさしくたたいて落としました。とうみに入



■親子奉仕活動  
昨年に引き続き、チューリップの球根を各子供会育成会に配布しました。子どもの夢を応援するチューリップが間もなく、各地で花開くことでしょう。

■規範意識の調査  
子どもたち、保護者、地域の皆さんの規範意識(きまりを守る気持ち)にそれぞれ違いがあるのか、調査しました。

タップリほめる。  
シッカリしかる。  
みんなで子どもの夢を育てよう

タップリほめる。  
シッカリしかる。

よその子どもでも悪いことをしていたら、きちんと注意しましょう。保護者の皆さんは、周りの人に子育ての応援をお願いしてみましょう。